

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870200466		
法人名	医療法人 永慈会		
事業所名	ひたちの森ガーデン(1F カトレア)		
所在地	〒319-1413 茨城県日立市小木津町1020		
自己評価作成日	平成 29 年 6 月 24 日	評価結果市町村受理日	平成 29 年 9 月 26 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 29 年 8 月 1 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営母体である医療法人の病院が近隣にありいつでも医療機関に相談、迅速な対応を取れる体制となっており利用者様、ご家族共々安心して生活出来るようになっております。毎月行事やドライブの計画を立て季節を感じながら気分転換して頂く機会も設けています。また、毎年近隣の幼稚園・小学校との交流会や敬老会の参加、行事などで地域住民の方々と交流の場面を増やせるよう取り組んでいます。天気が良い日には外に出て外気浴をされたり施設周りを散歩するなどして開放的な施設を目指しています。利用者様には住み慣れた地域で家庭的な雰囲気の中、健康で楽しく過ごしやすい生活が出来るよう充実した介護が提供できるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は医療機関を母体として近隣に設置された、通所介護や通所リハビリテーション、短期入所療養介護、小規模多機能型居宅介護などの諸施設と連携を取り、利用者が住み慣れた環境の下で、安心・安全・信頼の老後生活を送ることができるよう支援にあたっている。月2回運営母体の協力医療機関の医師による訪問診療があるほか、看護師による健康管理があり、利用者や家族等の安心につながっている。管理者は職員とコミュニケーションを深めながら、利用者が庭で野菜を栽培したり、草取りを楽しむなど、アットホームな日常生活ができるよう支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に復唱して共有し業務が出来るように努めています。	全職員で話し合い決めた理念を、施設内に掲示するとともに、朝礼時や会議時に復唱し、意識付けをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年幼稚園・小学校との交流会を開催しています。また地区社協の受け入れを通じて広く地域に開放しています。	小学生の体験学習を受け入れるほか、幼稚園児が来訪し、交流をしている。事業所主催の夏祭りに地域住民を招待したり、運営母体である医療機関の秋祭りに参加して地域交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学の方や電話での問い合わせなど随時ケアマネージャを中心に対応しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の家族代表、市職員、民生委員、他グループホーム職員などで開催し情報交換や皆様の意見を取り組みサービス向上を図っています。	地域にある他のグループホーム代表者や福祉用具事業所の職員から、運営に関するアドバイスや参考事例の紹介があるほか、市職員から緊急時の対応や、避難方法についての提案や意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアマネージャが中心に市町村との関わり、情報の交換をしています。	市職員から入居者の受け入れ相談があるほか、1年に2～3回市主催の事業所向け勉強会に出席し、市担当者と意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内マニュアルに沿った勉強会を開催しています。	年1回マニュアルを用いて研修会を行うほか、身体拘束廃止委員会を設置し、話し合いを行っている。参加できない職員には議事録を回覧したり、資料を配布している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会を実施すると共に入浴時は必ず利用者様の全身を観察し異常が無いか職員同士観察をするように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者が研修会に参加し学んだ事を施設内の研修会にて発表、職員全員が学べるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に説明し、家族様の同意を得るようにしています。改定時はその都度連絡し説明を行って同意を得ています。また、玄関口にご意見・苦情箱を設置しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは面会時に意見や要望を聞くように努め年一回アンケートを実施し意見を得られるようにしています。	重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明示するとともに、玄関に意見箱を設置している。年1回の家族会や面会時に意見を聴いている。家族等からでた意見には迅速に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けています。	申し送り時やユニット会議時、10日に1回程度行われるランチョンミーティング時に意見を聴いている。必要物品の購入希望等を聴き、迅速に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の努力や実績を考慮すると共に要望や意見を聞き本人に見合った就業環境整備が整えるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の能力を把握し見合った外部研修に参加する機会を設けスキルアップの向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内施設の交流や外部研修などに参加することで同業者との交流する機会を設けサービスの質の向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に実態調査をし入居時に困りごとや不安なこと、要望を聞き取り現状維持出来るよう支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族から困りごとや不安なこと、要望を聞き取り家族様が安心して施設に預けられるよう関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を聞き取り見極め相談も含め対応出来るようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食時は利用者様と一緒に食事し、お茶をしながら談笑し家族のように過ごしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時には面会、外出なども依頼しご家族と共に利用者様を支える支援が出来るようにしています。家族会の参加を促し昼食と一緒に摂る機会なども設けるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には居室などでゆっくりとした時間が過ごせるようお茶などを提供しています。また、年末にはご家族や知人などに年賀状を出せるようにし関係性が途切れないよう支援しています。	日々の生活の中での会話や関わり等から、馴染みの関係を把握し、面会者にはお茶を出してゆっくりと過ごしてもらったり、ドライブに出かけた際には、自宅の近所を走るなどしている。年末には年賀状作成の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リハビリ・ラジオ体操の声掛けや洗濯物置みなど利用者様全員が協力し楽しめる場を設けるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内施設でのイベントや受診などで見掛けた時には挨拶声掛けをするようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを通して一人ひとりの思いや希望を把握し職員で共有し思いに沿った支援に努めています。	利用者の表情や仕草から思いや希望を把握し、個人記録の裏表紙に記載して、職員間で周知している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族構成、生活歴、病歴など人格を尊重してご本人の意向をしっかりと把握して支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態に応じて職員と一緒に行動していません。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行ない問題点を把握し、家族様参加のもとに担当者会議を開催し、担当職員を中心にサービスを提供しています。	利用者や家族等の意向を基に、医療関係者の意見を取り入れ、介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、基本1年で見直しを行っているが、変化が生じた場合は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を中心に利用者様の状態変化に注意し情報の共有をしながらケアを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族様の要望を随時聞き取りし職員同士で情報を共有しながら臨機応変に対応出来るよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事などには安全確保しながら参加しています。運営推進会議を通じて様々な方と協力し支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、家族様の意向を優先し素早く適切な治療が受けられるよう手配しています。	協力医療機関の医師による訪問診療が月2回、訪問歯科診療が月1～2回ある。専門科医への受診は職員の付き添いが基本となっているが、家族等が希望し一緒に行くこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師が週一で訪問するので日々の健康状態や医療に関する相談ごとをし対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が病院なので早期退院を目指し病院職員との情報交換を随時行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで	入居時に家族様に説明し同意を得るようにしています。必要時には利用者様、家族様の要望を聞きながら密になって支援出来るよう取り組んでいます。	「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき家族等に説明を行い、同意を得ている。年1回内部研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し迅速に対応出来るよう訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月一回の外出時には避難誘導を実施しています。また避難訓練や消火器の使用方法を消防署指導にて訓練しています。災害時の食料なども倉庫に備蓄しています。	避難訓練を年2回行っているが、夜間想定訓練を行うまでには至っていない。訓練後は反省会を行い課題について話し合っている。備蓄品を保管しているが一覧表を作成し管理するまでには至っていない。	夜間想定訓練を行うことを期待する。また、備蓄品の一覧表を作成し、職員間で共有し管理することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の意思決定を尊重しています。以前の生活スタイル、希望などコミュニケーションを取り把握に努めています。	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮しており、年1回法人全体で守秘義務に関する勉強会をしている。個人情報に関する書類は出入り口に鍵のかかる部屋の書棚に保管し、適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で気軽に話せるよう随時コミュニケーションを図り利用者様の意向にあった介護を心懸けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく利用者様のペースや希望に沿った介護が提供出来るよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一回のペースで理美容訪問があります。また女性利用者様は化粧、口紅などしておしゃれし外出されています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な雰囲気の中で職員と利用者様が一緒に食事をしています。簡単な作業などには一緒に参加し好みの味付けを聞いて楽しく行われています。食後は茶碗拭きやテーブル拭きなどして片付けも役割り分担されています。	利用者はテーブル拭きや下膳、食器拭き、野菜の皮むき等出来ることを一緒に行っている。毎月のイベント食やおにぎりを持っての外出、季節に合わせた行事食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の記録に食事量、水分量のを記入しています。月一回体重測定を行い栄養管理の把握にも努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は声掛けにて口腔ケアを実施しています。月一回歯科医師訪問治療も実施しており口腔内の清潔保持をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し必要に応じてプライバシーに配慮しながら声掛けや誘導を行っています。	排泄チェック表から一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけをしながら誘導し、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や適度な運動を実施していません。症状改善見られない利用者様には医師に相談、受診し便秘薬など処方してもらっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に合わせた時間に入浴出来るよう支援しています。	入浴は基本週3~4回、午前中となっているが、利用者の希望や状況に応じていつでも入れるように支援している。入浴剤やゆず湯、菖蒲、みかんの皮やお茶の葉など工夫したお湯にすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	以前の生活習慣を把握して利用者様の状況や希望に合わせて自分のペースで休息や睡眠が確保出来るよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を個人ファイルに保管しいつでも確認出来るようになっています。また服薬変更の際には内服薬後の状態観察を日々の記録に記入しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の個性や能力を配慮して出来る事や好きな事が行えるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩やドライブの計画を立て外出の機会を設けています。必要時には家族に協力してもらい外出など出来るよう支援しています。	前庭での日光浴や草取り、近隣への散歩、通院の際行きのみ歩きで行くなど、日常的に外出を支援している。年間行事計画を立て、利用者の思いに沿った場所へ外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様一人ひとりの希望に合わせて家族様と相談しお金を所持している利用者様もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を作成して家族様へ発送しています。また、電話をしたいとの訴えがある場合には家族様へ連絡し通話ができるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活が過ごしやすいよう配慮していません。季節にちなんだ工作を作成してもらい展示し季節感を感じるように配慮しています。	季節に応じた手作りの作品等を飾り、家庭的で居心地のいい雰囲気となっている。小上がりの畳では利用者が洗濯物を畳んだり、寛いだりと思い思いに過ごせるようになっている。浴室やトイレには手摺が設置され、安心して使用できるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室なので一人になれるスペースがあります。Dルームや和室などで気の合う利用者様同士が談笑出来る場所も確保してあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの設置や本、写真を飾ったりと一人ひとりに合った馴染みのある部屋になれるよう工夫しています。	居室の入り口には名前のほかに、それぞれ飾り等がつけられ目印となっており、利用者の安心につながっている。利用者はそれぞれ使い慣れたものを持ち込み、馴染みのある部屋に設えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、エレベーターには手すりや設備されており安全安心に生活出来る造りとなっています。トイレ案内も展示しわかりやすい様にしています。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 ひたちの森ガーデン

作成日 平成29年9月20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練を年2回行っているが、夜間想定 の訓練を行うまでには至っていない。訓練 後は反省会を行い課題について話し合っ ている。備蓄品を保管しているが一覧表を作 成し管理するまでには至っていない。	非常災害発生時の利用者様の安全確保の体制を整え、職員の防 災対策の意識を高める。	夜間想定 の避難訓練を実施し、訓練後は反省会を行 い次に繋げる。災害備蓄品リストを作成し 月一ごとに担当職員を代え点検を行い管理 することで全職員が共有出来るようにする	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。